

<共通論題>

リーマンショックから5年—金融危機は再発するか

東京大学

福田慎一

<問題提起>

世界経済は、「100年に一度の危機」といわれたリーマンショックに端を発する深刻な同時不況からはおおむね立ち直った。しかし、その後も、ユーロ危機を経験した欧州諸国や、新興国、なかでも経常赤字を多く抱える「フラジャイル5」（脆弱な5つの国）では、不安定な動きが続いている。世界経済は、政策判断を一つ間違えると、再び世界的な信用不安が進行する可能性と常に隣り合わせにある。そこで、共通論題では、「リーマンショックから5年—金融危機は再発するか」と題し、今日、世界経済や日本経済が抱えるリスクを、櫻川昌哉、高田創、河合正弘の3氏に論じていただくことにする。

まず、櫻川氏には、リーマンショックから5年を経た昨今の金融市場を、国際資本移動、金融機関のレヴァレッジ、資産バブル等の観点から概観していただき、「なぜ危機は繰り返されるのか」を論じていただく。世界経済の潜在的なリスクが依然として残るなかで、各国の規制や政策対応もリーマンショック後、大きく変化している。どのような政策対応が政策当局に求められるかも議論のテーマとなる。

次に、高田氏には、金融危機の問題を、財政赤字の累積やそれに起因する国債暴落の可能性に関連付けて、論じていただく。欧州債務危機は欧州の国債問題であったが、日本の国債の累積は欧州諸国以上に深刻である。その一方、異次元の金融緩和の下で、日本の長期国債の利回りは歴史的な低水準で推移を続けている。このような日本経済の状況をいかに考えればよいのかも、議論のテーマとなる。

最後に、河合氏には、最近の国際金融市場が新たに抱える潜在的なリスクを、新興国経済と国境を越えた危機の伝搬という観点から論じていただく。先進各国の異次元の金融緩和に伴う世界的なカネ余りのなかで、平時には、行き場を失った巨額の資金が少しでも高いリターンを求めて世界中を駆け巡っている。その一方、ひとたび投資家の間にリスクオフのムードが強まると、その流れは突然逆回転を始める構造が、最近の国際金融市場にはある。そのような昨今の国際金融市場に対する評価も、議論のテーマとなる。